

2025年 5月 19日

川西市議会議長 様

会派（呼称）名	無所属
議 員 名	長田拓也

管 外 調 査 報 告 書

このたび、管外調査をいたしましたので、その概要を下記のとおりお届けいたします。

記

1 調査者氏名

長田拓也

2 調 査 先

埼玉県川口市

3 調 査 期 間

2025 年 5 月 15 日

2025 年 5 月 15 日

4 調査結果の概要

川口市議・菅野静香の案内で、クルド人を中心とした外国人問題について講演・住民意見交換・市内視察を実施。

1. 講演（宇山卓栄氏）
過剰な報道に注意：クルド人が「暴れている」というイメージは一部誇張。
人口実態：市は 2,000 人と公表するが、実際は不法滞在含め 5,000 人超と推定。
仕事と経済構造：クルド人は主に安価な解体業に従事。日本人業者は撤退傾向。
摘発困難の理由：摘発が不十分で、警察・行政の対応が機能していない。教育現場の課題：仮放免の子供たちの素行・言語・通学問題が学校に影響。

2. 市民との意見交換会
静かな地域もあれば騒音・暴走・無断車使用など深刻な被害例も。
ヘイトと受け取られることへの懸念から、住民が声を上げにくい空気。
自治会が強い地域は安定しやすい傾向。
日本語指導やゴミ問題、生活ルールの違いなどが顕在化。

3. バス視察
昼間は平穏だが、夜間には異なる様相。
解体ヤード、暴動現場、爆破事件の痕跡などを見学。
川口から他地域へ拡散傾向あり。他自治体も対岸の火事ではない。

◆ 結論・所感
多文化共生推進プランの理念と現実のギャップを実感。市民は行政の不作为に不安・怒りを抱いている。少数の外国人でも、適切な対処がなければ地域の秩序が崩れる。問題の根本解決には法と政治の力が必要であり、選挙と主権者意識が鍵。